

抗議声明

6月14日、会社は、現在新幹線メンテナンス東海（SMT）に出向中である東京地区分会の山本組合員に対し、出向延長の事前通知を行った。私たちは、若年出向が14年も経過した山本組合員の元の職場に戻りたいという希望を無視したこの不当な出向継続（再出向）に対し、満腔の怒りを持って抗議する。

山本組合員は、現在出向中のSMTを6月末で3年の出向満期を迎えることから、今回をもって14年もの長きにわたる若年出向を終了し、JR本体に戻るべく、これまでの面談の中で再三にわたって出向前の元職場である車両所職場に戻りたいと会社に意思表示をしてきた。

しかし、会社は5月28日に山本組合員に対し、「SMTの方からも、(山本さんは)優秀な人材なので出向を延長してほしいとの要請があって会社としても出向延長でお願いしたい。」と、事前通知の前に一方的に出向の継続を押し付けてきた。山本組合員は、肝炎を抱える体調のことや、出向期間が長くなり、若年出向を今回も継続すると次回更新時には自動的に54才の原則出向年齢を迎え、将来的には65才まで延長されるといわれる退職年齢まで、鉄道人生の中後期のほとんどを出向で終えることになるため、今回で出向の終了を求めたのに対し、会社は「今日は希望を聞きに来たのではない。出向延長を伝えに来た。」と、出向の事前通告を行った。

さらには、6月1日と7日の2回、労働協約、出向協定上の手続き的なものとしてのみ、山本組合員の希望を「形だけ聞くだけは聞く」という、あくまでも「出向延長を前提にした面談」をアリバイ的に消化したのだ。

私たち東京地区分会は、会社による今回の有無を言わさぬ出向延長の強要を絶対許すわけにはいかない。一方的に出向に出され、本体に戻ることなく退職していった他労組組合員の声なき声を我がものとしつつ、山本組合員と共に固く結び、再出向の無効と元職場復帰を勝ち取るため会社の横暴と闘う。私たち東海労の闘いに「泣き寝入り」はないのだ。そして、今回の一方的な出向延長の背景になっている会社の「命令と服従」「規律と忠誠心」を許さず、全組合員一丸となり職場から闘っていく。

2012年6月16日

JR 東海労 東京地区分会